



令和5年になりました。今年もよろしくお願いたします。

我慢すること、耐えることの重要性

よく「あの子は勉強はできるしスポーツもずば抜けていて、すごいわね」という会話を聞くことがあります。そしてその後に「きっと、もって生まれたものが違うのね」と続くこともあります。

さて、「もって生まれたもの」については医学的・科学的にはよく分かりませんが、その子どもの幼児期の食・睡眠・運動などの生活習慣の違いや、集団遊びを好んだり、一つのことに夢中になって工夫をしながら同じ遊びを繰り返したりなどの「遊び」の経験の違いが要因になっている場合はあるかと思えます。

しかし、小学校高学年から中学生になると、学習内容は難しく、専門的になってきます。運動も「筋力」「筋持久力」「柔軟性」「全身持久力」「スピード」「瞬発力」「巧み性」などの幅広い体力が求められるようになります。

したがって、幼児期の過ごし方に違いがあったとしても、その後の努力が伴わなければ優れた結果には結びつかないのです。また、幼児期までの間に何か特段のことがなくても、成果が現れてくることは十分にありと考えています。

勉強やスポーツに限らず、私は、優れた結果というのはその人の努力によって生み出されるものと信じています。そこで重要になってくるのが、「我慢すること」、あるいは「耐えること」という忍耐力や耐性なのです。

人は誰もが、何についても「できるようになりたい」という欲求をもっています。これは人として共通の欲求なのですが、これを実現化しようとするかどうかで分かれ道が来るのです。

例えば、「勉強ができるようになりたい」と思ったとき、理解しようと努力しなければなりません。もし過去の学習内容で理解できていない箇所があれば、そこまでさかのぼって理解しなおさなければなりません。さらに、もっとできるようになりたいければ、まだ学習していない先の内容でも教科書や参考書などの文を熟読し、考えながら理解していかなければなりません。ミスを減らしたければ、毎日何度もドリル形式で学習を継続する必要もあります。これらを実践するためには、遊びたい時間を勉強に充てる我慢をしたり、途中で疲れても耐えながら継続したりする必要があります。「勉強ができるようになった人」はこれらの困難を乗り越える忍耐力や耐性をもっていたのです。

スポーツもそうです。先ほどのような幅広い体力を身に付けるトレーニングを毎日続けた上で、さらに特定の種目に必要な筋力や瞬発力などの体力を強化し、特定の技術を身に付けるために人一倍練習を繰り返し、体を動かさないうちも戦略やそのための練習方法を考えなければなりません。やはり、これらを実践するためには、我慢をして時間を練習に費やしたり、成果が上がらなくても耐えながら継続したりしていく努力が求められるのです。「スポーツができるようになった人」は「勉強ができるようになった人」と同じく、忍耐力や耐性をもっていたのです。

社会人になっても同じだと思います。

新規採用から仕事ができる人はまずいないわけで、自分の仕事の合間に、先輩の仕事ぶりをみて、いかに技を身に付けるか、いかに効率的にこなしていくか、いかに先を見通して準備をしておくかなど、いわゆる先輩から「盗む」ことができるかが重要です。また、研修で学んだことは、学んで終わりにせずいかに現場で活用できるか、工夫しなければなりません。さらに、上司から指示された場合は、仕事の順序を考えながら処理し、正確に仕上げていかなければなりません。やはり、ここでも我慢することや耐えることができるかどうかで「仕事のできる人」とそうでない人との違いが出てくるのです。

昔から「知・徳・体」と言います。

私は、この中で要となっているものは「徳」であると信じています。「徳」の中には「人を思いやる心」「正義を重んじる心」など様々な価値が存在しますが、その中でも「我慢すること」「耐えること」が、「知」や「体」に大きく影響しており、「徳」がなければ「知」も「体」も十分に育成することはできないと考えています。

逆に「我慢すること」「耐えること」がしっかりしていれば、「知」も「体」も十分に力を発揮する結果となるのです。それが「あの子は勉強はできるしスポーツもずば抜けていて、すごいわね」と言われる子どもなのです。

本校にも、両方に優れた力を発揮している子どもが複数名いますが、みな「我慢すること」「耐えること」ができる子どもたちです。

さらに、「我慢できる」「耐えることができる」子どもたちは、他者に対しておおらかで寛容です。また、協調性もあり、ときには自分が我慢をして全体の調和を図ることもできます。そして、みんなで協議するときには、自分の考えを全体に押しつけるのではなく、じっくりと忍耐強く説明することができるのです。また、自分が優れていることについては、一切、表に出そうとはせず謙虚です。

つまり、人間的な魅力も兼ね備えていくことになるのです。

このような忍耐力や耐性を身に付けさせるためには、「継続させる」体験をさせるのが最も効果的です。それも、最初は10分間でいいのです。

例えば、毎日19:00から10分間は計算の練習をしようとか、e ライブラリのドリルをやろうとか、筋力トレーニングをしようとか、リフティングをしようなど、毎日、同じ時間帯に同じ学習・練習内容をさせるようにするのです。その時間はたとえゲームをしていたとしてもやめさせます。寝ていたとしても起こします。漫画を読んでいたとしても取り上げます。外出しているときでも外出先でやらせます。とにかく1年365日、毎日続けなければなりません。1年も経たないうちに、子どもは、その時間帯には「やらなければ気分が悪い」と感じるようになります。それが、忍耐力や耐性の芽生えであり、そこから取り組む時間を延ばすことも可能ですし、取り組む幅を広げていくことも可能になり、真の忍耐力や耐性が身に付いていきます。

中学生からでも遅いということはありません。これからの人生の方が断然長いのですから。ただし無理矢理やらせることはできないので、「我慢すること」「耐えること」の意義を十分説明し、お子さまが納得のうえで、実践してみたらいかがでしょうか。特に、年が変わったとき、年度が変わったときなどが効果的なタイミングだと思います。

SNSへの書き込みは社会現象というよりすでに日常化

ソーシャルネットワーキングサービス、いわゆるSNSの利用者は、若者だけではなく小学生から高齢者まで広がりを見せており、ネットの世界でのつながりを感じられること、ネットを通じて容易に社会進出できることなどから、様々な活用がなされています。

一人一台のタブレットパソコンを活用できるようになった今、学校では各教科等、すべての教育活

動を通して情報教育を行っておりますが、情報教育について文部科学省は以下のような目標を掲げています。

情報教育とは、子どもたちの情報活用能力を育成するものであり、教育目標については次の3つの観点に整理されている。

1 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信伝達できる能力

2 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

3 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

「1」については、本校では学校図書館とタブレットを活用した調べ学習などを、理科・美術・国語などで実施するとともに、弁論作成に当たっても図書やタブレットで調べたりしております。その他、校外学習の事前学習などでも同様な調査・探究活動を行っております。さらに数学の統計の単元では情報を処理して発信する学習をしています。これらの学習でまず必要なことは、膨大に集まった情報の取捨選択と情報の信憑性を見極めます。そのうえで分析・考察し、出典などを明らかにしながら、詳しく知らない相手の立場になってプレゼンをしたりレポートにまとめたりしており、これらの学習により「1 情報活用の実践力」は身に付いていきます。

「2」については、主に技術・家庭科の技術分野において、「計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること」「問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構築して情報処理の手段を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること」などの専門的な学習をするとともに、「1」の学習の中でも具体的な場面で普段の生活に汎用できる指導をすることにより、「2 情報の科学的な理解」がされていきます。

「3」の、特に情報モラルについては、タブレットを使用するガイダンスなどで、チャットなどで人を傷つけるような書き込みはしないことなどを指導したり、学級活動でSNSに個人が判別できる情報や顔写真などを掲載したりしないよう指導したり、文字言語だけのコミュニケーションは真意が正しく伝わらず誤解を招く恐れがあることなどを指導したりしており、子どもたちは頭では理解してきていることと思います。

しかし、世の中は世界中でSNSによる情報発信がすでに社会現象となっており、加熱した書き込みなども指摘されておりますが、加熱しているいなくにかかわらず、SNSによる情報発信はすでに日常のものとなっております。

昔、戦国時代の頃は、大名が味方を増やすために何通もの書状を書き、数日間かけて各地の大名に届けるなどして戦の前に情報戦があったと言われておりますが、今は瞬時に世界中に情報を発信することができることと、内容によってはその真偽は別として強く支持されてしまうことから、匿名の書き込みも急増しています。

この時代で、子どもたちを加害者にも被害者にもさせないためには学校教育だけでは不十分です。各ご家庭で社会的な時事問題をテーマに、SNSで発信される内容について、お子さんとその妥当性などについて議論していただきたいと思っております。特に、政治的背景がある内容や思想・信条に関わる内容などについては学校で扱うことができませんので、ご家庭のご協力がいただけると幸いです。

他国では、スポーツの世界大会などで優勝候補だった有力な選手が不本意な結果に終わったとき、母国から過激な誹謗・中傷を受け、帰国しづらい状況を作っている場合があります。我が国でも、昨年のカタールで開催されたFIFAワールドカップにおいて、日本が初戦のドイツ戦で、前半リードされ

ながらも後半に逆転して勝利を収めたとき、SNS上では賞賛の書き込みが多数されました。選手だけでなく森保監督の戦術についても賛美の意見が多数書き込まれていました。しかし、2戦目のコスタリカ戦で惜しくも負けてしまったとき、勝利を確信していたからなのか、特にディフェンダーの選手を中心に誹謗・中傷がたくさん書き込まれたのは記憶に新しいのではないかと思います。

また、タレントへの継続的な誹謗・中傷により、当該のタレントが耐えきれずに、生きる希望も見出すことができなくなり、自ら命を落とすということもありました。

すでに、世の中の一部の大人たちの情報モラルが崩れているのを、子どもたちは目の当たりに見ているのです。ですから、学校で指導することは、子どもによっては「きれいごと」と受けとめているかもしれません。また、「現実は違うじゃん」とまで思っている子どももいる可能性はあると思います。

子どもたちが成長していったとき、頭では分かっている、安易な書き込みにより世間で注目され、誤った社会参画をしている気分にならせないよう、積極的な家庭教育に期待したいと思います。

お知らせ

- 荒川区新人卓球大会において以下の成績を収めました。

団体戦	女子1位	男子1位			
個人戦	1年生男子の部	第2位	廣橋 拓海	第3位	荒巻 大和
	2年生女子の部	第1位	内田 はな	第2位	伊藤 紗英佳
		第3位	國近 咲希	第3位	安部 凜咲
	2年生男子の部	第2位	大岩 勇翔	第3位	大杉 眞吾

- ジュニアオープン汐入カップにおいて以下の成績を収めました。

準優勝 バレーボール部

- 荒川区読書感想文コンクールにおいて以下の生徒が優秀な成績を収め表彰されました。

片山 舞桜(1年) 細野 桃花(1年) 福岡 愛子(1年)

- 第16回「あらかわ小論文コンテスト」において以下の成績を収めました。

賞	氏名	学年	題名
教育委員会賞	別府 優虹	3年	肌色とは何色か
奨励賞	大森 心晴	3年	小さな労働者
奨励賞	菊澤 真結	3年	世界を身近に
佳作	諸橋 綾奈	3年	医療が充実しているありがたさ

- 第15回「あらかわお弁当レシピコンテスト」において以下の成績を収めました。

賞	氏名	学年	お弁当のタイトル
教育委員会賞	伊藤 舞帆	1年	夏を感じて、夏に勝とう弁当
佳作	水藤 雪峰	1年	色とりどり弁当
佳作	中田 瑠那	2年	家族のみんなでピクニック気分 ～色どり豊かなおいしいご飯～
佳作	加藤 愛子	3年	思い出弁当
佳作	笹平 千晴	3年	お父さんに贈る3色の彩り弁当
佳作	川上 七音	3年	受験生が作った受験生応援弁当！
佳作	福島 真由子	3年	お父さんのダイエット弁当

- 3年生の保護者の方に：お子さんが面接を受ける前日に、スカートのひだ・ズボンの折り目がきれいに見えるようアイロンをかけていただけたら幸いです。